

教科目名 生体情報工学 (Biological Information Engineering)

学科名・学年 : 電気電子情報工学専攻 1年 (教育プログラム 第3学年 科目)

単位数など : 選択 2単位 (後期1コマ, 学習保証時間 22.5時間)

担当教員 : 木本智幸

授業の概要				
脳を構成をまねて作られた情報処理機構であるニューラルネットワークについて講義する。階層型モデルとリカレント型モデルの基本を学び、パターン分類、パターン復元、最適化問題、コンピュータビジョンなどの情報処理に応用する方法についても学ぶ。また実際の脳の視覚野における情報処理機構も講義する。				
達成目標と評価方法		大分高専目標 (E1), JABEE 目標 (d2a)		
(1) ノイマン型コンピュータと異なる情報処理法を知り、発想を広くもつ。(定期試験) (2) エネルギー関数の概念を理解し、安定状態の存在を物理的感覚で身につける。(定期試験) (3) 最適化問題やコンピュータビジョンに適用する方法を理解する。(定期試験)				
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検	
1	脳とノイマン型コンピュータ 神経回路のモデル化(マカロピッツ ニューロン他)と情報表現	脳とノイマン型コンピュータの比較を行 い、各々の特徴を理解する。	【理解の度合い】	
1-4	階層型ニューラルネットワーク パーセプトロン型ネットワーク XOR 問題 パーセプトロンの学習則 誤差逆伝播学習則 情報処理装置への応用	階層型ネットワークの一つである、パーセ プトロンについて学習する。また、パーセ プトロンの学習限界について学ぶ。また、パーセ プトロンの学習限界を解決するために、誤差 逆伝播学習則を導入したネットワークについ て学習する。		
5-8	Hopfield モデル 連想記憶モデルの想起と学習 連想記憶モデルへのエネルギー 関数の導入 最適化問題への応用	代表的なりカレント型モデルである Hopfield モデルについて説明し、パターン復 元などロバストな情報処理ができることを説 明する。また、アトラクタを持つ性質を利用 して、最適化問題の解法として利用できるこ とを説明する。必要に応じて計算機シミュレ ーションを見せる。		
9	ボルツマンマシン 状態遷移規則	情報処理に確率動作を導入することで、ロー カルミニマムから脱する方法について説明す る。また、状態の出現確率を導出する方法を 学ぶ。(時間があれば、任意の出現確率をモデ ルに獲得させる学習アルゴリズムについても 説明する。)		
10-13	コンピュータビジョン(不良設定問 題)への適用 小窓問題 陰影情報からの3D復元 エッジ検出問題	様々な不良設定問題を標準正則化理論と呼 ばれる解法で統一的に解く方法について説明 し、ハードウェア実現に関してニューラルネ ットワークの使用が適していることを説明す る。必要に応じて、計算機シミュレーション を見せる。		
14	脳の視覚野の生理学的知見 網膜から初期視覚野へ 初期視覚野から前頭葉・側頭 葉・頂頭葉へ	実際の脳の生理学的知見を説明する。オン オフセンターセル、方位選択性細胞、コラム 構造、受容野などについて説明する。		
15	後期期末試験			【試験の点数】 点
	後期期末試験の解答と解説			
履修上の注意	階層型ニューラルネットワークの学習およびリカレント型ニューラルネ ットワークの学習 & 状態変化には、エネルギーの概念が出てくる。重要な概 念であるため意識して理解すること。Hopfield モデル・ボルツマンマシン は統計物理のスピンガラスのモデルを脳のモデルに焼き直したものであ る。そのため計算機科学の研究を行う学生だけでなく、物性系の研究を行 う学生にも有用であると考えられる。			【総合達成度】
教科書	担当教員作成の冊子(参考図書に基づく)			
参考図書	J.Hertz, Introduction to the theory of neural computation, AddisonWesley Pub. 麻生英樹著, ニューラルネットワークと情報処理, 産業図書			
関連科目	コンピュータ (E科), 情報処理 (S科), 生体情報工学			
総合評価	達成目標の(1)~(3)について定期試験で評価する。総合評価 = 定期試験の 成績。総合評価が60点以上を合格とする。			【総合評価】 点